



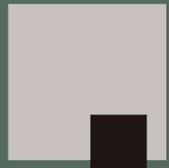
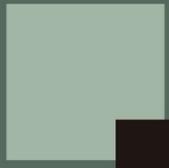
アマチュアオーケストラ

# 新交響楽団第264回演奏会

The New Symphony Orchestra – 264th Concert

指揮 寺岡 清高

TERAOKA Kiyotaka, conductor



## シュレーカー

# あるドラマへの前奏曲

Franz SCHREKER (1878-1934): Prelude to a Drama (Vorspiel zu einem Drama), 1913

## マーラー

# 交響曲第10番 嬰へ長調 クック版第3稿 (1989年) 全曲

Gustav MAHLER (1860-1911): Symphony No. 10 in F-sharp major, 1910

The third/final performing version (1989) prepared by Deryck Cooke

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

**2024年1月8日 (月祝) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演**

Monday, January 8, 2024, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 B席: ¥1,500 (全席指定)

チケットのお申し込み: [teket https://teket.jp/3558/27588](https://teket.jp/3558/27588) このQRコードをご利用ください →

インターネットを利用されない方は 080-9010-0058 (留守電にメッセージを入れてください)

プレイガイド: チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード: 254705 \*10月12日(木) 発売開始

東京芸術劇場ボックスオフィス (1階) 休館日を除く 10:00~19:00 0570-010-296



\*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

\*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

## マーラー 9つの交響曲のその先へ

マーラーは交響曲に革命を起こした作曲家です。1860年に生まれドイツ後期ロマン派の最後の方で活躍しました。主要な作品は交響曲ですが、その規模や表現方法において革新をもたらし、9つの交響曲（「大地の歌」を入れると10曲）を完成させました。今では多くのクラシック音楽愛好家に支持され、どの曲も人気があるとあってよいでしょう。

マーラーはウィーン音楽院に学んだ後、指揮者としてのキャリアを積み、37歳にはウィーン宮廷歌劇場（現在のウィーン国立歌劇場）の芸術監督となり絶頂期を迎えます。49歳でニューヨーク・フィルの指揮者となり、交響曲第9番を完成させた後、さらにその先に行く交響曲第10番の構想を描き始めます。しかし咽喉炎を患い敗血症で亡くなりました。51歳でした。

未完の交響曲第10番は、第1楽章がほぼ完成しているものの第2～第5楽章は大まかなスケッチとして残されました。国際マーラー協会は第1楽章のみを出版しており、第1楽章単独で演奏されることが多いのですが、補筆によるいくつかの全曲完成版が存在します。中でもイギリスの音楽学者デリック・クックによるものが広く受け入れられています。

そもそも、マーラーは第10番のスコアを焼却するように妻アルマに言い残したらしいのですが、形見として残し自筆譜のファクシミリを出版しました。アルマの娘婿であるクルシェネクに補筆を依頼し、ほぼそのままの第1楽章と途中までオーケストラ譜ができていた第3楽章を補筆して完成させ、ウィーン・フィルにより初演されました。ファクシミリ版を見た何人かの人は、その音楽が感動的かつ補筆可能と判断し、全楽章をオーケストラで演奏することを目指しました。その一人がクックで、1960年にBBC放送のマーラー生誕百周年を記念する特別番組で演奏され放送されました。それに激怒したアルマは演奏を禁止したものの、演奏テープを聴いたアルマは感動し禁止を解除、その後もクックは補筆作業を続け、非常に信頼性の高いものとして認められるようになりました。

## シュレーカー ドイツロマン派のその先へ

シュレーカーは1876年生まれ、マーラーと同様にユダヤ人でウィーン音楽院に学び、指揮者をしながら作曲を行いました。

基本的に調性があるが高度な技法を取り入れた独自の作風で、指揮者エッシェンバッハは「マーラーの交響曲作りの書法を丸ごと新しいレベルに引き上げた」とも言っています。

主にオペラを作曲しており、その代表作が『烙印を押された人々』で当時は大変ヒットし、シュレーカー自身もウィーン音楽院の教授に任命され影響力を持つ作曲家になったものの、ナチスの弾圧にあい、失意の中脳梗塞で亡くなりました。55歳でした。

今回演奏する「あるドラマへの前奏曲」は、歌劇『烙印を押された人々』の完成前に、この歌劇の前奏曲に他場面の音楽を書き足して編纂されたものです。

どうぞお楽しみに！（H.O.）

## 今後の演奏会予定

<第264回演奏会>

2024年4月21日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎 彦太郎

曲目 デュカス/交響曲、ラヴェル/高雅で感傷的なワルツ、レスピーギ/交響詩「ローマの松」

<第265回演奏会>

2024年7月28日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅 卓雄

曲目 ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」 他

## 新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展（1976年にサントリー音楽賞を受賞）、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979～90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

## 維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

## 団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

## 演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢：生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円（税込）お問合せ：株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306（平日9:00～17:00、土日祝日休み）